

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月10日

事業所名 放課後等デイサービス 学童ひまわり

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			その日の利用メンバーや活動内容に応じてグループ分けや活動のスペースの区分けをしている。	工夫している点を継続しつつ、状況に応じて野外活動や法人施設を活動に今後も取り入れていく。
	2	職員の配置数は適切である			○	もう一人増やせたらより丁寧な支援ができると思う時がある。利用者の体調や気持ちの変調による個別対応が必要な時に不足を感じる	新学期や曜日ごとの実態に応じてスタッフ数を調整していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			スペース的に無理なのは分かっていますが、トイレのバリアフリーが気になります。	必要箇所を再検討し、成長や障がいに応じて対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			個別目標の一覧表を掲示することで、スタッフが共有できるようにしている。日々の支援後振り返りを行い、改善に努めている。	その日の振り返りをスタッフみんなで、支援についての情報共有を行う。記録帳に記入することで、職員間の情報共有をしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今年度も自己評価アンケートを行いご意見をいただいた。	今後の支援に活用できるようにスタッフ全員で共有し改善に努めていく。また、個々への周知をしながら今後も継続していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			お便りやホームページを利用し公開している。	個々への周知をしながら今後も継続していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	未実施であるが、現在外部依頼中である。	外部依頼中である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			リモート研修の受講、定期的なスタッフ勉強会や事業所研修の実施	障がい特性に応じた支援の仕方や家族支援の仕方等の知識、技術の向上のためスタッフ会議等で研修を行っていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子どもや保護者のご意向をもとに、学校や他事業所と情報交換を行いスタッフ全員で話し合い作成している。	アセスメントをしっかりと行いニーズや課題に応じた分かりやすい個別支援計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			保護者を通して専門機関から情報を得ている。年度初めには、個々のアセスメントシートをスタッフ全員で作成している。	情報をもとに個々に応じた支援方法をとり入れていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			その日の活動担当者を中心にチームでの事前打ち合わせを行っている。	個人で行ったうえでチームでアイデアを出し合い、活動の幅を広げられるようにしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			5領域の総合的な内容を意識し、季節の行事をとり入れながら子どもの興味に合わせて活動内容を決めていく。	子どもの年齢層や発達段階に合わせて支援内容を考えていく。ある程度固定も必要な面もあるが(子ども達も安心する)、その中で工夫をしていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			土曜や、長期休暇しかできない活動をとり入れている。	きめ細やかに設定できるよう努力していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			個々の課題に沿って活動内容を工夫しながら計画している。	「ひまわりチャレンジ」や「チャレンジタイム」で、個々の目標をもって取り組んでいる。子どもの状況に応じて全体活動やグループ活動も行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			その日の活動担当者を中心に活動内容や注意事項等の確認をしている。	今後も継続していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎日の振り返りをスタッフ全員で行っている。また記録ノートの記入により全スタッフで共有している。	今後も継続していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別支援計画に基づいた記録ができるように、それぞれの目標を意識づけられるよう掲示をしている。	今後も継続していく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的なモニタリングや支援者会議を行い支援計画の内容をスタッフ全員で検討している。	今後も継続していく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			基本活動を組み合わせ支援を行っている。	今後も継続していく。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	今後も継続していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		電話やFAX、またはバスの先生とのやり取りで情報交換を行っている。	今年度は夏休みに担任の先生が来所され情報共有も行うことができた。今後も継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在受入はない。定期的に研修を受けることで必要な情報収集に努めている。	今後も必要に応じて対応していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		来年度新規の方は今のところ予定はないが、今後必要時には情報共有していく。	連携をとりながら、できる範囲の文書や意見交換を通して情報共有に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		問い合わせの準備はしており要望に応じて対応している。	必要に応じて対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		保護者を通じて専門機関の助言を受けている。(診断書やリハビリ動画等)研修は受けている。	今後も継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		事業所内の施設間交流は行事や活動の中で行うことができた。	文化祭への出展、夏まつり灯ろう作り等できる範囲で行ってきた。子ども同士の交流については難しかったが来年度は実施できればと思う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		児童発達管理責任者が出席している。	今後も継続して参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時、サービス担当者会議等を通じて状況把握や共通理解を図っている。	その日の様子や気付きなどをお伝えすることで、共通理解ができるように情報の提供に努めている。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者の困り感を共有しながら、それぞれの個に応じた支援をしている。	スタッフ間での勉強会を開くなどして、知識や技術を身につけたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に説明を行っている。事業所入口にその日の利用負担金を掲示している。	今後も継続していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や連絡帳を通して保護者と子育ての悩み等を共有している。	今後も継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度久しぶりに夏祭りやウォークラリー、保護者会を開催した。	多くの方が参加できるように、開催時期や時間帯等についてご意見を聴きながら工夫し計画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情についての窓口の掲示をし、事業所で体制作りを整えながら、日頃から話しやすい雰囲気作りや信頼関係を子どもや保護者とするように心がけている。	今後も継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月のお便りにて情報発信をしている。室内掲示により子ども達にもお知らせしている。	ひまわり便りを作成し、子ども達の様子を伝えられるようにしていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の取り扱いに細心の注意を払っている。	今後も継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		個に応じた伝達方法(手話や視覚提示、メールやライン等)を取り入れている。	今後も継続していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		招待は難しいが地域行事に参加(夏祭りの灯ろうや文化祭)できている。図書館のお話会の方々に来ていただきお話を実施した。	例年行っているボランティアサークルとの交流会は未実施。状況を見ながら再開したい。
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		不審者対策の訓練、備えが足りないと思う。	策定し、掲示してある。訓練をとり入れながら周知に努めていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		訓練の回数足りない。色々なケースを想定しスタッフ全員で取り組む必要がある。避難の大切さ等は活動の中に組み込んでいる。	定期的に避難訓練を取り入れていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		1名が研修受講し、スタッフ会議での伝達講習を行うことで意識の向上に努めている。	定期的なスタッフ会議や臨時の検討会を開くことで、スタッフ全員で共有しながら取り組んでいる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		対象児において、計画書に記載しご家族に承諾をいただいで対応している。	定期的なスタッフ会議や臨時の検討会を開くことで、スタッフ全員で共有しながら取り組んでいる。危険回避のための行動について保護者の方へ個々に説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者を通して主治医の意見を聴き対応している。	保護者と情報共有し、必要に応じて対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット発生時に報告書を作成し、書類回覧と共に会議等で振り返りをしていく。	定期的なスタッフ会議や臨時の検討会を開くことで、スタッフ全員で共有しながら取り組んでいる。